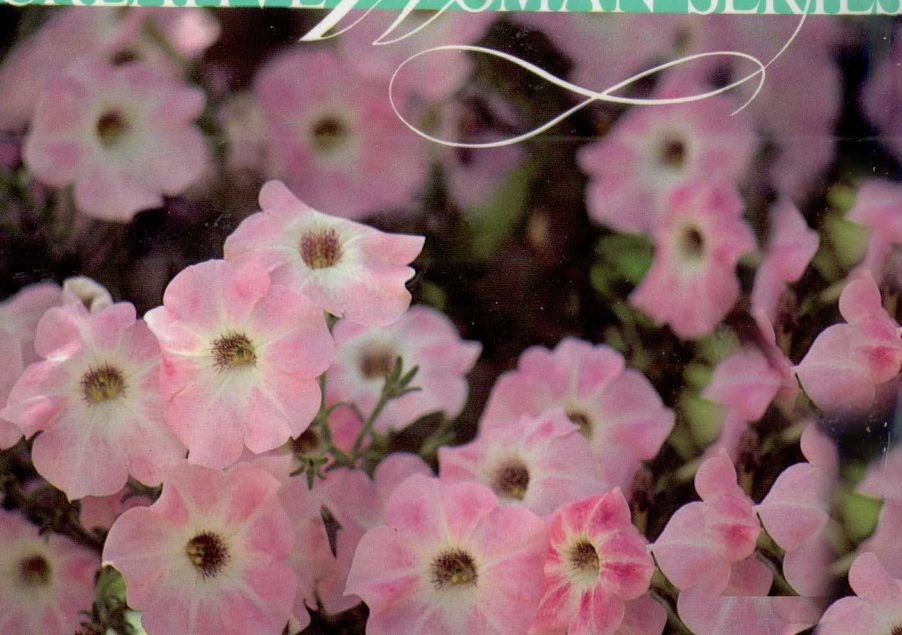
クリエイティブウーマンシリーズ②

「気ままにクリエイト」

青島美幸

CREATIVE WOMAN SERIES



CREATIVE WOMAN SERIES

クリエイティブウーマンシリーズ②

「気ままにクリエイト」

青島美幸

青島美幸

一九五九年、東京生まれ。和洋女子大学英文科卒業。十四歳のとき、TBS系ドラマで女優としてデビュー。十六歳でレコードをリリースし、歌手としてもデビューするとともに初のエッセイ集を出版。その後、放送作家として活躍。現在、日本テレビ系「朝のポエム」で構成、編集、演出、出演をして評価を得る。エッセイストとしても人気が高く、「み～んなブスを好きになれ」（集英社）「つぶやき飛行船」（大陸書房）「ハウスマヌカンハイドウドウ」（講談社）など著書多数。

気ままにクリエイト

一九九〇年一月二十五日初版発行

著　者　青島美幸

発行者　長谷文雄

発行所　株式会社フレーベル館

〒101東京都千代田区神田小川町三―一

電話〇三―二九二―七七八五

振替（東京）九―一九六四〇

印刷所　凸版印刷株式会社

©青島美幸　一九九〇

乱丁・落丁本はおとりかえいたします。

ISBN 4-577-70071-9　C 0095

目次

PART I　カメレオン孤独を飼い慣らそう

孤独を安らぎに変えるのがトレンディ　9

群衆の中の孤独はやっかいもの　15

デキル女は孤独と遊べる　27

PART II　親友探しは心の旅路

愛し合える友人づくり　39

男女間友情成立論者　49

友人と趣味、両立のススメ　55

哲学者の親友は自分自身　65

PART III　オットとらばるのはまだ早い

みんなでイイ娘に憧れましょう　81

ビクビク症候群と戦っているB子チャン　92
カユイところに手が届く私になってしまいましょう　97
〝ねばならない〟合併症　108
大変シンドロームへの個人的反発　120

PART Ⅳ　世間がコワくて結婚志願

六月は結婚ファシズムのシーズン　137
結婚の追い風には乗らないゾ！　147
非婚にこだわりすぎると不自由だ　151
〝こんな私でいいの？〟はクセ者　164
世間に負けて子どもが欲しい　171
子作りは老後の友人作り　184

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

PART V　主婦&主夫考

結婚幻想は不滅だ！　191
たかが紙切れ一枚の強さ　198
キリギリス男の末路は暗い　202
自立できない男は結婚難民になる　208
今こそ〝主夫〟の出番ですよ　213
夫婦の役割分担は自由な関係から　219
専業主婦は夫のマネージャー　227

カバー写真／中道順詩
本文イラスト／岸並千珠子
編集協力／もくば舎

装幀　野村高志

気ままにクリエイト

PART I

カメレオン孤独を飼い慣らそう

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

孤独を安らぎに変えるのがトレンディ

〝孤独〟を感じるのは、何も独身女性に限ったことではありません。ひとりぼっちだから孤独、という方程式にはならないわけです。〝ふたりでいながらの孤独〟これもまた、つらいものではないでしょうか。たとえば、恋愛関係にあっても、「あの人は本当に私のことが好きなのかしら」「彼はいったい何を考えているのだろう」

ちょっとした心のスキにすっと入り込み、日ごとに広がっていくそんな疑問。そう考え始めた時から、その人はきっと孤独に陥っているのだろうと思います。

孤独を感じる原因には相手がおり、自分ひとりの問題ではなくなるので、ひどくやっかいなものであると言えるかもしれません。「彼はいったいどう考えているのか」

自問自答し、あらゆる分析をしてみたところで、ハッキリとした答えは見つからず、すべてがひとり芝居のように思えてしまうのですから。

誰も助けてくれず、彼に尋ねるのも怖い。

「彼は私のこと、どう考えているのかわからないの。確かに十年間つき合っているわ。だけど彼の友だちに『俺の彼女』って紹介してくれたことは一度もない。いつも私から追いかけているだけ。この間もね、いきなりひと目ぼれした娘とつき合う、とかって言うのよ。私別れないって言って……いつのまにか元に戻っていたけれどねぇ。彼の両親ともうまくいっているし、彼と結婚したいのよ。十年間彼にくっついてきたんだし、もうそれ以外考えられないの。あなたが言うように、彼の都合のいいように振り回されているのはわかっているけど、いいの。好きなんだもの。

でも、彼が私のことどう思っているのか、これからどうしようとしているのかわからなくて不安。彼にきけばいいって⁉ そんなことときけない。それで終わっちゃったら……って考えてしまうから。……怖いのよ」

惚れて惚れて……もうそれは何キロも泳いだあとに、エンヤコラサと坂道を自転車で駆

け登り、ヘロッヘロになった状態で汗と涙で顔をグッチャグチャにしながらもゴールをめざす、あのトライアスロンのような恋をしていた娘の言葉でした。

「ホント、わからないって不安なのよねぇ。信じろと言ったって、信じてるつもりでも〝もしかしたら〟っていう考えがどこかにあって、やっぱり不安なのよねぇ」

そうですよね。相手の気持ちって、どんなにそばにいようと、たとえ隣にいようと、わからない時には不安で不安でしかたなくなりますよね。やっぱりこれもひとつの〝孤独〟だと思うのです。そばにいるからこそ襲ってくる孤独。気持ちは言葉でうまく表現できないものですし、何よりも互いに信じるという土壌があってこそ、言葉も意味を持ってくるのです。ということは、このことはたぶん結婚している夫婦にもあてはまると言えるのではないでしょうか。

恋愛が結婚へと発展し、ふたりでいることの喜びのさなかに結婚式。新婚生活を満喫しているうちに子どもができ、ダンナさまが仕事の忙しさに突入する頃には子育ての真っ最中。そうして子どもが大きくなり、自分の時間ができるようになると、ダンナさまは仕事に夢中になっているわけです。「うちのダンナは家に寄りつかない。いったい、まだ私のこ

とを愛してくれているのかしら？」から始まり、「仕事、仕事って言っているけれど、ホントに仕事なのかしら？　他に好きな女性でもできたのかもしれない」「ワイシャツに香水のかおりはついていないかしら……。変な名前のバーやキャバレーのマッチでも持っていないかしら……。話のつじつまは？　ネクタイの趣味は変わってない？」

ダンナの一挙一動に目を光らせ、洗濯物をチェックするようになる……。

主婦の孤独は、こうしてドンドン自分と相手を追い詰めていくことなのでしょう。もしかしたら、夫婦の離婚なんて何が理由というわけでもなく、このようなちょっとしたことから生まれた心のスキや疑惑が日増しに広がって、ついにはお互いをギスギスしたものにしていくのかもしれません。

とすると、相手が好きなあまりに生まれる孤独感ということですから、誰のせいでもなく、あたるところのない悲劇ということになりますね。結局、結婚ということでどんなに自分の地位が落ち着こうと、たかが〝籍〟という紙一枚のことであり、男女の仲ということにかわりはないのでしょう。

ひどい孤独に陥った時は、何もかもがズンと心をつきあげる道具となります。雨が降れ

ば、そのどんよりとした雲と雨音が心臓の鼓動を助長させ、静けさは頭を混乱させる。もういたたまれず、人の声がどうしても欲しくなり、テレビをつけてみたりラジオを聞いたり、友だちに電話をしてみたり……。でも慰められるのは一時のこと。消してしまえば結局、前の状態に逆戻り。

この状況はきっと、ひとりぼっちの女性も、ふたりでいながらにして孤独な人も直面するのでしょう。そう、みんなやっぱり孤独。

宇宙で今、誰よりも一番寂しいであろうと感じている時、きっとどこかで誰かがあなたと同じ感情を味わっているってことになりますね。だから、「ふたりでいようと、そこに安住するのではなく、〝孤独〟なあなたの時間と感情を大切にしなさい、その時間があなたを自立させるのです」と誰かが言った言葉は、ホントにその通りだと思うのです。

ひとりの孤独と同じように、自分自身と向き合うことで自分を知る、自分の孤独を知ることで人は相手をも思いやることができるのだと思います。思いやることができれば、〝孤独〟も恐怖を伴うものではなくなるかもしれません。そうなれば相手のいる人はしめたものではありませんか？

安らぐ場はちゃんと確保され、孤独になる時間もある。とすると、その人にとってひとりの時間は、もはや孤独な時間というよりは、自分だけの安らぎの時間になるのですものね。要するに孤独な時間と自分だけの自由な時間は同じ種類のもので、あなた自身の考え方ひとつなのですから……。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.